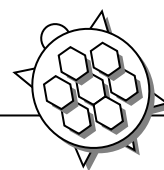


亀さん通信

今年も残すところあと僅かですが、いかがお過ごしでしょうか！

亀のように歩みは遅くとも、『お金力』をしっかり・確実に身に付けていただく【亀さん通信】第 135 号発信！



今年もいろいろありました！

今年もいろいろありましたが、資産運用の世界はどうだったのでしょうか。身近である十六銀行の一番売れている商品で 1 年を振り返ってみましょう。とはいえ、決して同行の商品を勧めているわけではありませんのでご注意ください！（笑）

『今年の初めに 100 万円を投資していたら？』 上段は 2015 年 下段は 2014 年

種類	商品	投資額	時価額	分配金	損益	利回り
		A	B	C	D=B+C-A	D/A
国内株式	フィデリティ・日本成長株・ファンド	994,308 円 (986,919 円)	1,089,669 円 (1,077,321 円)	0 円 (0 円)	95,361 円 (90,402 円)	9.6% (9.2%)
国内債券	ニッセイ日本インカムオープン	997,866 円 (998,478 円)	979,506 円 (998,172 円)	16,830 円 (18,360 円)	▲1,530 円 (18,054 円)	▲0.2% (1.8%)
外国株式	ビクテ・グローバル・インカム株式ファンド（毎月分配型）	998,556 円 (996,216 円)	803,239 円 (1,079,172 円)	103,800 円 (111,600 円)	▲91,517 円 (194,556 円)	▲9.2% (19.5%)
外国債券	フィデリティ・USハイ・イールド・ファンド（毎月分配型）	999,826 円 (994,486 円)	810,434 円 (997,334 円)	149,520 円 (149,520 円)	▲39,872 円 (152,368 円)	▲4.0% (15.3%)
預金	定期預金（1年）	100 万円 (100 万円)	100 万円 (100 万円)	250 円 (250 円)	250 円 (250 円)	0.025% (0.025%)

（注）投資額は 100 万円で購入できる最も大きい金額。2015 年の時価は 12 月 25 日時点。金額は税引き前で手数料は考慮せず。

日経平均株価は好調を維持し、年頭には 17,000 円台だった株価が 4 月には 20,000 円台に到達。6 月には 20,952 円まで上昇するも、8 月 19 日から僅か 5 営業日で 20,500 円台から 17,000 円台後半まで大幅下落。いわゆる「中国ショック」であり、中国株の暴落が世界同時株安を誘発しました。その後、株価は一時 16,000 円台後半まで落ち込むものの、一気に持ち直して 12 月 1 日には再び 20,000 円台に。しかし、結局はズルズルと値を下げ、現在は 18,000 円台の後半でもみ合いを継続中。はたして来年はさらに上を目指していくのか、それとも？えっ、私に聞かれても分かりませんよ。その答えは神のみぞ知る、ということで。（笑）さて、上図からも分かるように日本株の健闘が光っています。とはいえ、外国株がダメだったかという、そうとも言い切れません。確かに日本株と比べれば低調でしたが、一番の原因は商品そのものにあるのです。

外国株式	ニッセイ外国株式 インデックスファンド	995,953 円	987,974 円	0 円	▲7,979 円	▲0.8%
------	------------------------	-----------	-----------	-----	----------	-------

いかかでしょう。損失には違いありませんが、随分と利回りが改善しました。詳細は省きますが、上図の商品はアクティブファンド、下図はインデックスファンドと呼ばれます。簡単に言えば、前者は市場の平均的な収益を上回る成果を上げる、後者は平均的な収益を獲得することを目的とします。これだけ聞くと、儲けは多いほうがいいじゃないか、と思われるかもしれませんが、当然ながらデメリットもあります。それはコストが高いこと。前者の信託報酬は実質 1.84%、後者は 0.27%。それだけの費用が毎日運用資産から控除されますので、その差は歴然。では、なぜ銀行は顧客が損をする商品を勧めるのか。その答えは、もうご存知だと思います。その商品は彼らにとって得なもの（購入者にとって損なもの）ですから…

それではみなさん、よいお年を！

（株）亀山保険事務所 亀山裕弘（ミルロ） 1 級ファイナンシャル・プランニング 技能士 0575-28-2768 info@kameyama-hoken.com